



エコアクション21

## 環境経営レポート2019

(対象期間 41期 2018年9月～2019年8月)

2019年9月20日作成

2019年11月18日改訂



伸光写真サービス株式会社

# 目 次

1.	会社概要	2
2.	対象範囲（認証・登録範囲）	3
3.	環境経営方針	4
4.	環境経営目標（今期41期及び中長期目標）	5
5.	環境経営計画（今期 41期）	6
6.	環境経営目標の実績値・取組結果とその評価（今期 41期）	8
7.	環境経営計画（次期 42期の取組内容）	10
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果・違反、訴訟等の有無	11
9.	代表者による全体評価と見直しの結果	11



## 当社のSDGsとのつながり



材料等資源の有効利用



土壤汚染から地域を守る



水の利用効率を大幅に改善しきれいな排水に



気候変動対策(CO2削減)



さらなる電子化の促進



海洋汚染の防止

当社は電子業界の最先端技術を積極的に取入れ、人類・社会の進歩発展に貢献し全従業員の幸福を追求します。

当社は様々な分野のプリント配線板の試作品を製作しています。

私たちの製作しているプリント配線板は世界の人々を結びつけ、宇宙開発にも貢献しています。

**持続可能な地球・世界にするために、私たちに何ができるでしょうか！**

## 1. 会社概要

所在地 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18

設 立 昭和 52 年 7 月 1 日

代表者 代表取締役 峯村儀勝

資本金 3,450万円

環境管理責任者 柏倉 宏美

連絡先 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18

TEL : 045(933)8311

FAX : 045(933)8318

事業内容 プリント配線板・メタルエッチング及び  
工業用精密マスクの製造

事業の規模 主要製品の生産量 / 出荷額 2.3t / 383百万円

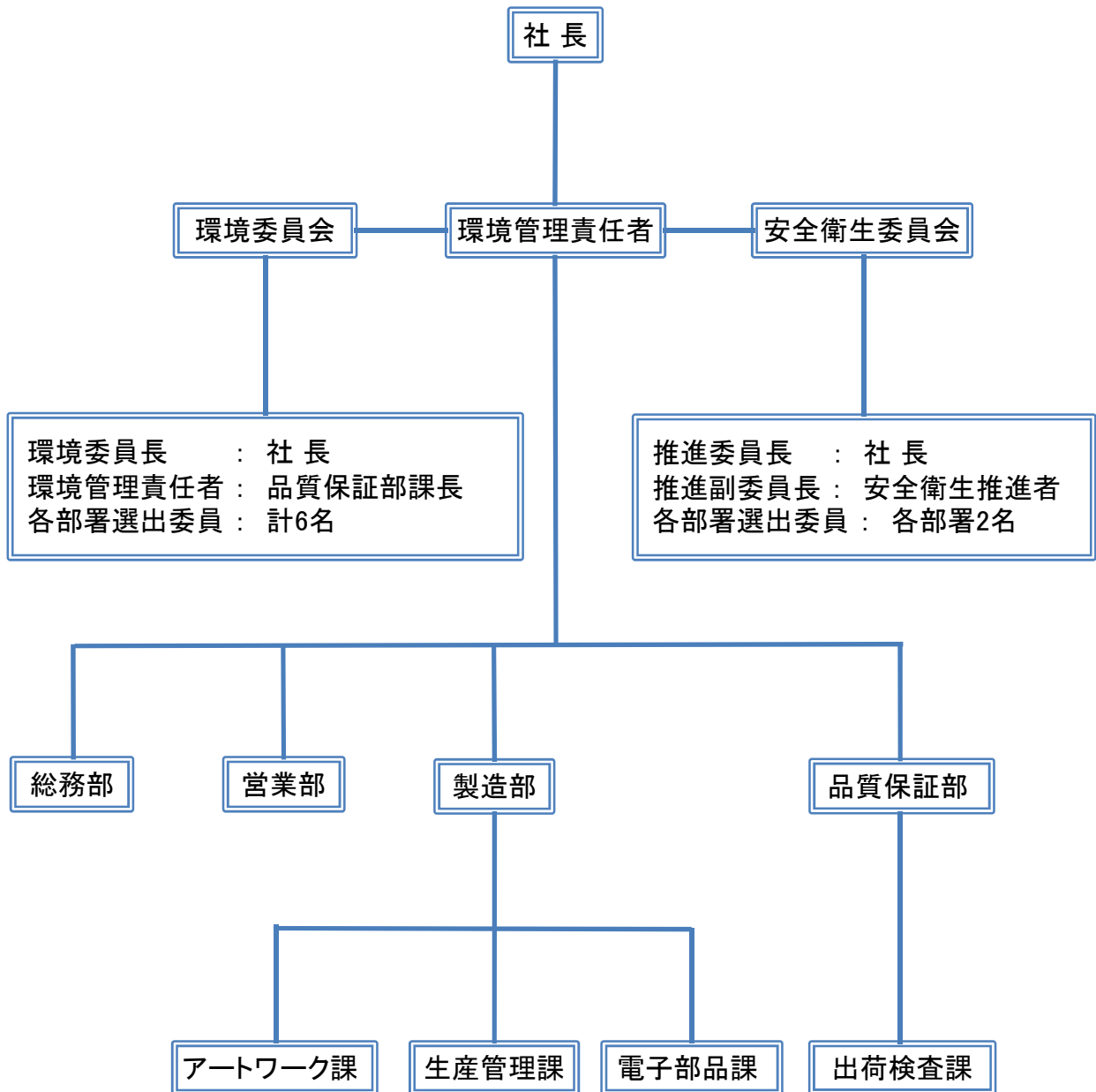
従業員総数 29名

床面積 660m<sup>2</sup>

## 2. 対象範囲(認証・登録範囲)

全社(本社)環境管理組織(実施体制)

2019年9月1日現在



### 有資格者

特別管理産業廃棄物管理責任者 1名  
A種除害施設等管理責任者資格 3名  
安全衛生推進者 1名

### 3. 環境経営方針

伸光写真サービス株式会社は住宅地域に密着した企業として、身近な周辺環境保全と資源の節減・回収・リサイクル問題に積極的に取り組み、環境に配慮した事業活動を推進し“かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐ”事を目指し次の環境活動を展開します。

- ① 事業活動より発生する各種廃棄物、化学物質の管理を徹底し法令を遵守すると共に、化学物質及び各種廃棄物の削減・回収・リサイクルに努めます。
- ② 水質汚染・大気汚染の予防及び騒音問題についても法令を遵守すると共に、地域周辺への配慮を優先した事業活動を行います。
- ③ 消費電力・ガソリンなどの削減を中心とした省エネルギー活動を行い、CO2の削減に努めると共にグリーン調達を推進します。
- ④ 環境に配慮した製品・サービス・生産活動及び製品品質の向上を通し、顧客や社会に貢献します。
- ⑤ 周辺住民との積極的な対話を持ち、環境保全についての地域行事に進んで参加します。

以上のことを実施するため、環境に関する目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進する。  
この環境経営方針は、全社員に周知させると共に、外部の利害関係者が入手可能にする。

制定日2005年06月20日  
改定日2019年09月20日  
伸光写真サービス株式会社  
代表取締役 **峯村 儀勝**



#### 4. 環境経営目標(今期41期及び中長期目標)

環境経営目的	環境経営目標/年	39期(2017年) 実績	3力年計画		
			40期(2018年) 実績 前期	41期(2019年) 実績 今期	42期(2020年) 目標 次期
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量 (Kw)	131,581	135,646 目標130,265 (39期比-1%)	123,050 目標135,646 (40期実績を維持)	121,822 (41期比-1%)
	ガソリン使用量 (L)	2,471	2,550 目標2,446 (39期比-1%)	1,892 目標2,525 (40期比-1%)	1,892 (41期実績を維持)
	二酸化炭素排出量 (Kg-CO <sub>2</sub> )	67,343	67,373 目標61,019 (38期比-2%)	59,598 目標67,373 (40期実績を維持)	74,370 (41期比-0.92%) 排出係数変更
資源のリサイクル(3Rの推進、廃棄物等の削減)	一般廃棄物 (Kg)	245	266 目標242 (39期比-1%)	255 目標263 (40期比-1%)	252 (41期比-1%)
	産業廃棄物 (Kg)	26,960	20,695 目標26,690 (39期比-1%)	26,200 目標20,488 (40期比-1%)	25,938 (41期比-1%)
省資源の推進	水使用量 (m <sup>3</sup> )	1,300	1,373 目標1,284 (39期比-1%)	1,287 目標1,359 (40期比-1%)	1,274 (41期比-1%)
	コピー用紙使用量 (枚)	44,500	54,500 目標44,055 (39期比-1%)	53,995 目標53,995 (40期比-1%)	53,995 (41期実績を維持)
環境汚染の防止	グリーン購入の推進 (数)	5品目購入	5品目購入 (目標 5品目)	設定なし	設定なし
	化学物質の使用量・ 排出量の削減 (フィルム削減率 : 描画率%) ※廃酸・廃アルカリ削減	71.5	72.0 目標73.0 (38期比-1%)	70.9% 目標73.0 (38期比-1%)	71.6 (41期比-1%)
生産活動での環境負荷の低減1	不良件数の 低減(件)	95	133 目標48 (39期比-50%)	ポカミス件数 43件 目標33件 40期実績66 件	ポカミス件数 22件 (41期比-50%)
	※39期以前は 損失額の低減(%)	2.61%	2.15% (目標設定なし)	※41期はポカミス低減に変更	
地域社会との協調・連携	環境ボランティア 活動の実施(回)	達成 (目標 年1回実施)	達成 (目標 年1回実施)	達成 (目標年1回実施)	目標年1回実施
生産活動での環境負荷の低減2 ※基板材料節減	不適合情報等伝達/ 対策実施(件) (コミュニケーション の活性化)	達成 (不適合情報伝達 各部門5件/ 月)	達成 (不適合情報伝達 各部門伝達5件/ 月、対策の実施1 件/月)	中断 (効果が不詳の 為) (不適合情報伝達 各部門伝達5件/月、対 策の実施1件/月)	技術的未達事項 の改善 2件

電力排出係数変更  
0.449→0.571

## 5. 環境経営計画(今期 41期)

環境経営目標	今期取組内容
電力使用量の削減 (Kw)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポカミス50%低減を通じ、再製作の回数を減らし、設備稼働による電気量を削減する。</li> <li>・エアコンの旧型機3台を効率の良い新型機2台(6月、7月)に更新した。</li> <li>・エアコンの冷房/暖房を効率アップするために、サーキュレーター機能のある加湿器を全部署に導入した。</li> <li>・導入したエアコンの効果を評価できるよう、生産分と一般分を推定できる方法を構築した。</li> </ul>
ガソリン使用量の削減 (L)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3台の電気自動車、ハイブリッド車の活用を促進する。</li> <li>・エコモードに設定で運転する。</li> <li>・発進時、急加速しない。</li> </ul>
二酸化炭素排出量の削減(Kg)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に電気量とガソリン使用量を削減し、CO2削減を図った。</li> </ul>
一般廃棄物の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニール袋の再利用を継続した。</li> <li>・外注業者から入る合紙、ビニール袋で再利用できるものは返却して再利用した。</li> <li>・段ボール、古紙はリサイクルへ活用。</li> </ul>
産業廃棄物の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム使用効率をアップする。</li> <li>・金属類は分別回収し、リサイクルへ活用。</li> </ul>
上水道使用量の削減 (m)	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き以下の項目を実施</li> <li>・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理</li> <li>・使用量の把握を一ヶ月毎に監視</li> <li>・水道使用量の上昇傾向から漏水を検出し、漏水箇所を捜索、不具合個所の修理実施。</li> </ul>
コピー用紙使用量の削減 (枚)	<ul style="list-style-type: none"> <li>マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用 (社内データのソフト化の推進)</li> <li>・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施</li> <li>・資料は印刷を極力抑え、電子データで保存。</li> </ul>
化学物質排出量の削減 (%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム作成時の溶液使用量を削減に努めたが下期受注が下がり、目標通りの達成が出来なかった。</li> </ul>
ヒューマンエラーの低減 (%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO9001の促進を通じ、ポカミス50%低減を目指した。実績は35%低減となり、取組の効果はあった。</li> </ul>
不適合情報等伝達/対策実施(件/月) (コミュニケーションの活性化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部門間において、重要情報の迅速な伝達により不適合を低減し、廃材を削減することを目的に取り組んできた。期間中にコミュニケーションによる削減程度の評価を行ったが、関連性が明確にならない事、またコミュニケーションからの取り組みだけでは継続的なシステムの改善に結びつかないため、期中に取り組みを中止とした。</li> <li>・ISO9001の継続的改善で情報伝達の仕組み構築を図ると共に不具合対策でヒューマンエラーに並ぶ不具合内容の技術的課題の改善に取り組むことで不良による材料廃棄の低減を図ることとした。</li> </ul>
環境ボランティア活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴見川清掃および近隣地域の清掃に取り組んだ。</li> </ul>

2018年11月 鶴見川・会社周辺清掃のときの写真です





## 6. 環境経営目標の実績値・取組結果とその評価(今期 41期)

※購入電力の排出係数: 0.571 (kg-CO2/kwh)  
(前期設定時の排出係数:0.447(kg-CO2/kwh))

分類	環境経営目標	41期 目標値	41期 実績値	取組結果 (+が未達)	評価
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量の削減 (Kw)	135,646 (40期実績を維持)	123,050	-9.3%	○
	ガソリン使用量の 削減(L)	2,525 (40期比-1%)	1,892	-25.1%	○
	二酸化炭素排出量の 削減(Kg)	67,373 排出係数変更 (40期実績を維持)	59,598	-11.2%	○
資源のリサイ クル(3Rの推 進、廃棄物等 の削減)	一般廃棄物の削減 (Kg)	263 (40期比-1%)	255	-3.0%	○
	産業廃棄物の削減 (Kg)	20,488 (40期比-1%)	26,200	+27.9%	× 注1)
省資源の 推進	上水道使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	1,359 (40期比-1%)	1,287	-5.3%	○
	コピー用紙使用量の 削減(枚)	53,995 (40期比-1%)	42,500	-21.3%	○
環境汚染の 防止	化学物質 排出量の削減 (描画フィルム 利用率(%))	73.0% (40期目標を維持)	70.9%	+7.8%	× 注2)
生産活動で の環境負荷 の低減1	不良件数 の低減(%)	ポカミス件数33件 (40期比-50%)	43件	+30.3%	× 注3)
生産活動で の環境負荷 の低減2	不適合情報等伝達/ 対策実施(件/月) (コミュニケーション の活性化)	各部門 5件	中断	-	- 注4)
地域社会と の協調・連携	環境ボランティア 活動の実施(回)	年1回実施	年1回実施	実施	○

注1) 社内5S活動を実施し、整理整頓を行った際に廃棄物が排出された。

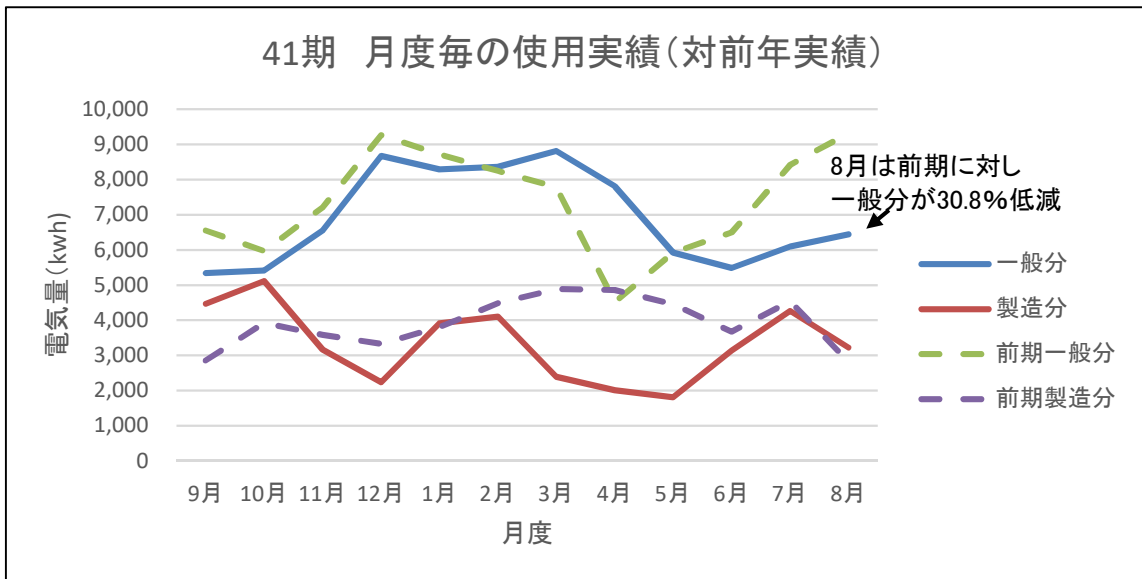
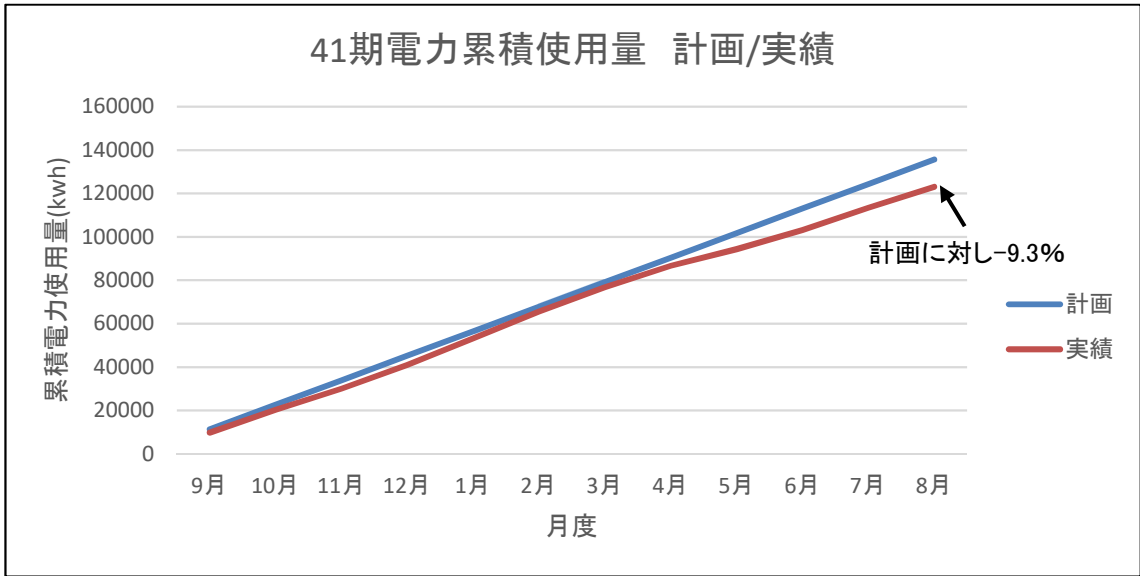
注2) 下期受注量が減少したため、効率的なフィルム描画が出来なかった。

注3) 昨年実績ポカミス66件に対しては35%の削減になっている。

注4) コミュニケーションの活性化に伴う材料損失の低減数値化が困難なため、一端中断とした。







## 今期41期の電力使用量の目標値と実績のグラフ





※ 当社のCO2排出量は90%が電力使用量依存のため、電力使用量のグラフを示す。



## 7. 環境経営計画(次期 42期の取組内容)



環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
電力使用量の削減 (Kw)	<p>目標値: 売上目標を前期比15%アップとしたため前期実績を維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポカミス50%低減を通じ、再製作の回数を減らし、設備稼働による電気を削減する</li> <li>・旧型エアコン1台の更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク 資源利用の効率低下 支出増加</li> <li>・機会 CO2削減により社会貢献</li> </ul>	<p>気候変動への対策</p> 
二酸化炭素排出量の削減 (Kg)	<p>目標値: 売上も目標前期比10%アップのため前期実績を維持</p> <p>※本項目の電気の影響度は90%である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に電気量とガソリン使用量を削減しCO2削減を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク 自然災害発生により自社の操業が停止し、お客様へ製品を提供できない</li> <li>・機会 CO2削減により社会貢献</li> </ul>	<p>気候変動への対策</p> 
ガソリン使用量の削減 (L)	<p>目標値: 売上目標を前期比15%アップとしたため前期実績を維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3台の電気自動車の活用を促進する</li> </ul> <p>※本項目のCO2排出量への影響度は10%である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコモードに設定で運転する</li> <li>・発進時、急加速しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク ガソリンペーパーが、PM2.5や光化学オキシダントとなり環境を破壊する呼吸器系や循環器系などの疾患リスクを上昇させる</li> <li>・機会 CO2削減により社会貢献</li> </ul>	<p>気候変動への対策</p> 
一般・産業廃棄物の削減 (Kg)	<p>目標値: 前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄プラごみの影響を認識し、ビニール類の削減を努力義務とする。</li> <li>・今まで廃棄してきたビニール類の他用途への活用を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク マイクロプラスチックの有害物質吸着による生態系への影響</li> <li>・機会 安全な食材の維持</li> </ul>	<p>海洋汚染の防止</p> 
産業廃棄物の削減 (Kg)	<p>目標値: 前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップしフィルム使用効率をアップする</li> <li>・再製作の回数を減らし、廃材とする材料の量・使用する薬液の量を低減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク 基板材料の購入量増加により流通においてもCO2排出量が増加 廃材増加による利益率低下</li> <li>・機会 資源の有効利用</li> </ul>	<p>資源の有効利用</p> 
水使用量の削減 (m <sup>3</sup> )	<p>目標値: 前期比1%削減する</p> <p>引き続き以下の項目を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理する</li> <li>・継続して使用量を一ヶ月毎に監視する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク 大量の水排出により有害化学物質の流出が増加し生態系に影響</li> <li>・機会 生態系を維持 淡水の持続可能な供給を確保</li> </ul>	<p>水の利用効率の改善</p> 

環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
コピー用紙使用量の削減 (枚)	<p>目標値：前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用</li> <li>・ISO9001の促進を通じ、ドキュメントの電子化を促進する</li> <li>・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク 森林減少による土地劣化の加速、生物多様性の崩壊により地球環境が崩壊へ進む</li> <li>・機会 陸域及び内陸淡水生態系の自然循環により生物多様性を回復し豊かな自然を取り戻す</li> </ul>	<p>森林再生の大幅増加</p> 
化学物質排出量の削減 (%)	<p>目標値：使用量を前期比1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム作成時の溶液使用量を削減する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク 規制化学物質管理の不順守で行政の管理が厳格化 操業停止</li> <li>・機会 行政の信頼向上</li> </ul>	<p>水・土壌汚染の防止</p> 
ヒューマンエラーの低減 (%)	<p>目標値：ヒューマンエラーを前期比50%低減すると同時に仕損率もモニタリングする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO9001の促進を通じ、仕事のルールを順守し不適合を低減する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク ヒューマンエラーによる再制作の増加で使用材料、電気量、水の使用量が増加し利益が減少 お客様納期の不順守</li> <li>・機会 納期順守、お客様の信頼向上、ポカヨケの認識向上</li> </ul>	<p>資源の有効利用</p> 
技術的課題の改善 (件)	<p>目標値：技術的課題の改善 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的に困難な課題を改善し、不具合の発生を抑制し、安定な生産体制を構築する。</li> <li>・安定な生産による効率的な生産計画を立て、エネルギー削減/材料削減を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク 全体的に仕事があまく回らない</li> <li>・機会 活力のある組織風土の醸成(ソフト要素の改善)</li> </ul>	<p>資源の有効利用</p> 
環境ボランティア活動の実施	<p>引き続き、地域社会との協調として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていく。</li> <li>・地域行事に協賛企業として参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク -</li> <li>・機会 地域周辺住民への環境意識の向上 環境への貢献・PR</li> </ul>	<p>環境面の良好なつながりで環境影響を軽減</p> 



## 8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認・評価結果、違反・訴訟等の有無

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、違反はなく遵守されています。  
 また、関係当局より違反・訴訟等の指摘は創業以来ありません。  
 (主要関連法規のみ掲載します)

主な適用法規制	内 容	遵守状況
下水道法 水質汚濁防止法	公共下水道排水の定期分析異常なし(横浜市の監査問題なし) 銅、アンモニアの排出基準	○
廃棄物処理法	指定回収業者契約書等再確認済み(横浜市の監査問題なし) (電子)マニフェストの管理	○
フロン排出抑制法	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化(設備点検済み)	○
横浜市条例	A除外施設問題なし 資格者保有	○
資源有効利用促進法	使用済み物品等及び副産物の発生の抑制並びに再生資源及び再生部品の利用の促進に関する所要の措置を講ずる	○
製品含有化学物質管理(業界標準)	RoHS2/J-Moss、REACH SVHC(含高懸念物質) コンゴ民主共和国等産出の紛争鉱物	○
消防法	対象:危険物。消火器定期点検・期限監視 危険物安全対策、横浜市火災予防条例	○
労働安全衛生法	特定化学物質障害予防規則(特化則)	○
家電リサイクル法	小売業者及び製造業者等による特定家庭用廃棄物の収集及び運搬 に関し、適正かつ円滑に実施するための措置を講ずる	○
自動車リサイクル法	自動車製造業者等及び関連事業者による使用済み自動車の引き取り 及び引き渡し、再資源化等を適正かつ円滑に実施するための措置	○

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今期は受注額が5%減少する中、

①不良発生37%低減による電気量、水使用量の削減、

②エアコンの更新による電気量の削減、

などにより通期で9.3%の電気量削減が図れました。

※当社のCO2排出量における電気量の依存度は約90%となっています。

※今期はCO2排出係数が変更となり、排出量増加の要因となりました。

また、営業車の使用を電気自動車・ハイブリッド車を優先的に使用することを徹底したおかげで、前期比25.8%削減と大きな成果を出せました。

さらなる継続的改善として次の取り組みを行います。

前期より取り組んでいる持続可能性への新しい物差しSDGsをさらに考慮に入れ環境対策を推進します。

1. 基板材料削減を主とした資源の有効利用のために、次期もKPI(指標)としてヒューマンエラーの低減率を設定します。

さらにこれまで安定生産にネックとなっていた技術的課題への改善にも取り組みます。

また引き続き仕損率もモニタリングします。

これにより基板の再製作を減らし電力使用量、水使用量も削減します。

2. 災害時の影響を低減するために、事業継続プランの運用を強化し、緊急時の内部・外部への影響を軽減します。

3. 「リスクと機会」の力量・認識の強化を通じ、法令・規制遵守の確実性を向上します。

引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていきます。

また地域行事に協賛企業として参加します。

2019年9月20日

代表取締役

峯村 儀勝